

# 菊陽人 りさーち



ますだ たいよう  
**益田 太陽さん (9歳)**  
[杉並台]

- 将来の夢  
動物園の飼育員
- 自慢  
友達がいっぱいいる
- 今一番やりたいこと  
そろばんをがんばる
- みんなに伝えたいこと  
母ちゃん仕事がんばってくれてありがとう。体に気をつけてね。



ごとう ひろき  
**後藤 広樹さん (9歳)**  
[鉄砲小路]

- 趣味  
カード集め
- 将来の夢  
畑仕事か大工
- 自慢  
きょうだいが5人いること!
- 今一番やりたいこと  
習字をがんばりたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。  
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

# ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声  
人権  
作文シリーズ  
【No.14】

身近な人の死を見送ることは「いっぱい泣いて」の表現に尽きる出来事です。しかし、悲しい別れを糧にしながら自らの命を充実させていく姿に逞しさを覚えます。また、出会いを喜び、周りの友だちに向ける目を確かにしたいと決意する子どもたちの生き方に心が洗われます。  
\*作者の学年は前年度の在籍学年となります。

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

## ひいじいちゃんのこと

菊陽中部小学校6年 深松 結菜

私のひいじいちゃんは、二月二十日に亡くなりました。ひいじいちゃんは母のおじいちゃん、戦争で肩をじゅうで二発うたれていて、一個とれたけどもう一個は体に残ったままだったそうです。私が部活から帰って来たら、ひいじいちゃんが倒れた・・・と聞き、びっくりして日赤へ弟と母と行きました。ひいじいちゃんはたくさんの機械にかこまれてベッドに寝ていました。



▲はげましをくれた友だち

お医者さんは、「今日か明日にはもう・・・。」と言っていて、でも私は「絶対大丈夫、じいちゃん元気になる。」と信じていました。日赤に運ばれた時は、熱が高かったそうです。でも二日たつと、熱が下がりに、運ばれた時より良くなっていったそうです。最初、人工呼吸器をはずせば、一、二時間ほもたないと言われたそうです。そんなふうにして、亡くなるのを待つか、積極的のどに管をいれたりして治療をするかを決めないといけなかったそうです。でも意識はあるのに管を入れるのはきついで、人工呼吸器を使い、なるべく楽にしていこう方法にしたそうです。朝から電話がかかってくるので、

「危ないから早く病院に来て!」と言われ、母と二人で日赤に行きました。すると、もうひいじいちゃんは亡くなっていました。この日が、仮通夜で、ひいじいちゃんの顔を見に行きました。とても優しい顔をしていました。おそつ式では、いっぱい泣いて見送りしました。お別れはとても悲しかったけれど、先生からもらった連らくカードに友だちがいっぱいコメントを書いてはげましてくれたので元気が出てきました。私はひいじいちゃんのことを忘れずにこれからも頑張っていきたいと思いました。

## ほいくえんのおともだちとあそんだよ

武蔵ヶ丘北小学校1年 まつおあや子

きょう、ほいくえんのおともだちが学校にきて、あそびました。じこしょうかいがありました。さいしよは、どきどきしていたけど、だんだん慣れてきたから、ちゃんとじぶんの名まえがいえました。おみせやさんごっこをして、とてもたのしかったです。



▲ひまわりの笑顔

## 「ほんごつのおともだち」を学習して

菊陽西小学校3年 木村あやと



▲ともだちといっしょに

ぼくは、この学習をして思い出したことがあります。ぼくのクラスの女の子が男の子二人からいやなあだ名を言われていました。でも、そのとき、「言っちゃだめだよ。」と一言で済ませませんでした。なぜかという、注意すると、ぼくもいやなことを言われると思って、こわくていえませんでした。言われていた女の子もわらっているように見えたけど、今になってみると、本当はいいだったのかなあと思います。その女の子にきいてみればよかったです。今度から「ぼくは、どうして、そんなことするの。」と言える人になりたいです。どうしても言えないときは、ともだちといっしょに、言えるようになります。

## きくよう文芸

### 菊陽句会報

六地藏頭に肩に花の屑	坂本百合子	里帰りせし娘と裏木戸に蓬摘む	吉野 早苗
七十路の径くねるに春の雨	田中 郁子	鶯や清正井戸の村百戸	川口 豊子
万葉の世を恋ふ藤の濃むらさき	村田 正三	霊気澄む春の深山の石清水	井上久美子
春野菜育つ速度の違いあり	井 子文	切り花の根本に初の青蛙	宮川ユキエ
ときめきは遠き日のまほ柿若葉	財津 早雪	墓参終へやつと縁先花蘇芳	日高 妙子
夜桜や雨に烟りて妖艶に	原野レイ子	巡り来る早き惑ひの路の藁	曾我 育代
バイパスの道間違へし目借時	西村ひとえ	笹鳴きに沈む心のほぐれけり	曾我トモ子
うぐいすや語り上手に誘はれて	カ 幸子	親子して駆け出す牛や草萌ゆる	紫藤 祥子
たんばぼや共に過せし日のはるか	高橋 孝子	春の宵歳月戻す童唄	村上 朋子
袖通すらよつときめく春の風	堀川 妙子	遠出する用向一つ春寒し	合志 重子
入学を待つる校舎運動場	佐藤 航	藤房の垂れて村径狭めたる	佐藤 澄世
ノッポの兄卒業式できんちようだ	佐藤 健	落椿何伝へんとする構へ	三島 一路
巫女の起居奥床しきや諸葛菜	佐藤 節		

### 短歌会

花房が地に届くかと咲き揃い蜜を求めて虫飛び交いぬ  
向い家の白藤の花咲き乱れ道行く人も振り返り見る  
天上へ昇る雲雀の声追へば左に右に朝より聞こゆ  
大輪の椿の花は群れて咲く一枝頂き絵手紙に書く  
千日紅・糸瓜・山吹・梅・桜花咲き継ぎて芙蓉真つ盛り  
晴天の二日続かぬこの日頃花散らす雨は今日もそぼ降る  
いにしへの知と技こめて造りしを広く潤す通潤の橋

今村 貞子  
岡本まさえ  
菊川あさみ  
下田 久子  
皆島キクノ  
森 敦子  
東 廣喜